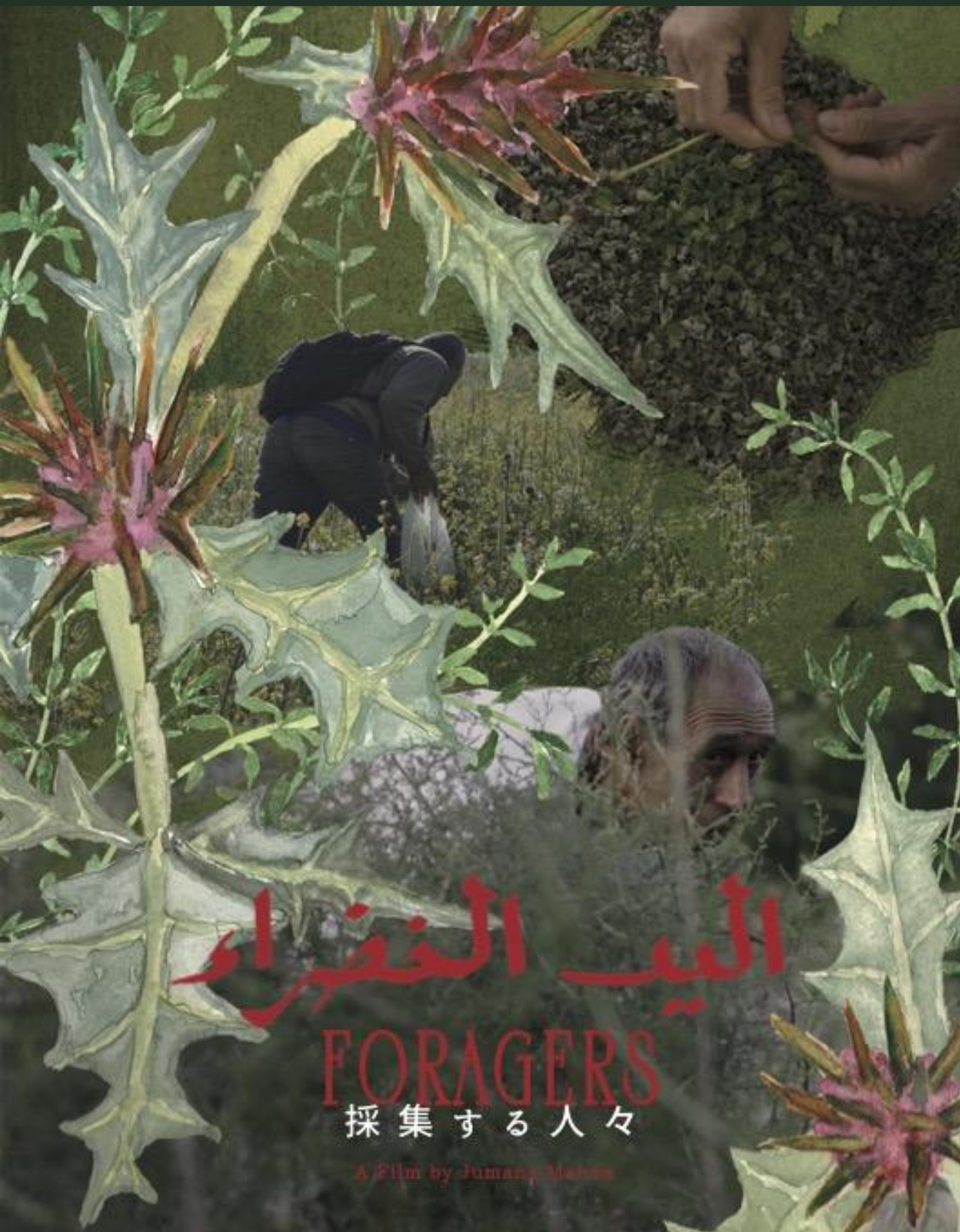


2026年度 桜美林大学リベラルアーツ学群
文化人類学公開講座シリーズ

映画上映会 & 解説

『FORAGERS 採集する人々』



採集から見える入植者植民地主義の実態

春は野草摘みの季節。家族や友人と野の恵みを拾い集め、分け合い、食卓を共にする。野草採集はパレスチナの人々の暮らしに息づく文化だ。イスラエル占領下、この伝統的な採集行為が違法化された。

食卓に欠かせないタイムの一種「ザアタル」、野草の王様「アックーブ」。これらの野草は今や、イスラエル人たちの集団農場で栽培される商品となった。採集を禁じるこの自然保護法は、自然と共に生きる尊厳ある暮らしを奪おうとする「入植者植民地主義」の実態を露わにしている。自然保護官が目を光らせる中、それでも採集者たちは野をめぐる。見つければ罰金、あるいは監獄。法廷では厳しい取り調べが待ち受けている...

ゴラン高原、ガリラヤ、エルサレムで撮影されたこの作品は、フィクション、ドキュメンタリー、アーカイブ映像の間を行き来しながら、占領者による文化の略奪に抗い、したたかに暮らしを紡ぐ人々の姿を軽妙なユーモアと瞑想的なテンポで描く。人間が作り出す制度が何を絶滅させ、何を存続させるのか。誰がその制度を作り出しているのか。観る側の視点も問われている。

Foragers portrays the impact of Israeli nature protection laws on the rich Palestinian customs of foraging wild plants such as Za'atar (thyme) and artichoke-like 'akkoub'. Following the plants from the wild to the kitchen, from the chases between the foragers and the nature patrol, to courtroom defences, the film captures the inherited love, joy and knowledge in these traditions alongside their resilience to the prohibitive law. By reframing the terms and constraints of preservation, the film raises questions around the politics of extinction, namely who determines what is made extinct and what gets to live on.

Foragers – 採集する人々 2022 / パレスチナ Palestine / アラビア語・ヘブライ語 Arabic & Hebrew / 65 mins
日英字幕付き With Japanese and English subtitles 日本語字幕翻訳: 佐藤まな Japanese subtitles by Mana Sato



監督: ジュマナ・マンナーア Director: Jumana Manna

ヴィジュアルアーティスト/映画作家。パレスチナ出身、ベルリン在住。植民地主義の遺産と土地に刻まれた複数性の歴史という観点から、身体、土地、物質性に焦点を当て、権力がどのように形作られるかを作品を通して探究している。

Jumana Manna is a visual artist and filmmaker whose work explores how power is articulated, focusing on the body, land, and materiality in relation to colonial inheritances and histories of place.

2026.11.4 (水) 13:10 - 14:50

桜美林大学町田キャンパス 明々館 BM402教室

【解説】 田村 幸恵 氏 (津田塾大学国際関係研究所)

主催: 桜美林大学リベラルアーツ学群 文化人類学プログラム

共催: 桜美林大学文化人類学学生研究会 (OSSCA)

問合せ: osawa_y@obirin.ac.jp (大澤)

参加無料・申し込み不要

学外からお越しの皆さまへ
ご来場の際は、できるだけ公共交通機関をご利用ください。